

エジプト学研究第 21 号 2015 年

The Journal of Egyptian Studies Vol.21, 2015

目次

〈序文〉	吉村作治	3
〈調査報告〉		
2014 年 太陽の船プロジェクト 活動報告	黒河内宏昌・吉村作治	5
第 7 次ルクソール西岸アル＝コーカ地区調査概報		
近藤二郎・吉村作治・河合 望・菊地敬夫・柏木裕之・竹野内恵太・福田莉紗		19
〈特別寄稿論文〉		
年輪年代学とエジプト学	ピアース ポール クリースマン・ジェフリー S ディーン	45
〈研究ノート〉		
中王国時代の装身具利用からみた埋葬習慣の地域性	山崎世理愛	59
〈修士・卒業論文概要〉		
エジプト先王朝時代における石製品研究		
—その生産と流通からみた地域統合過程の変遷を中心に—	竹野内恵太	79
「古代テーベとそのネクロポリス (The Ancient Thebes and its Necropolis)」における		
遺跡の保存と活用	福田莉紗	87
古代エジプト古王国時代から第一中間期における王権観	松永修平	96
〈活動報告〉		
2014 年度 早稲田大学エジプト学会活動報告		103
2014 年 エジプト調査概要		107
〈編集後記〉	近藤二郎	113

The Journal of Egyptian Studies Vol.21, 2015

CONTENTS

Preface	Sakuji YOSHIMURA.....	3
Field Reports		
Report of the Activity in 2014, Project of the Solar Boat	Hiromasa KUROKOCHI and Sakuji YOSHIMURA.....	5
Preliminary Report on the Seventh Season of the Work at al-Khokha Area in the Theban Necropolis by the Waseda University Egyptian Expedition	Jiro KONDO, Sakuji YOSHIMURA, Nozomu KAWAI, Takao KIKUCHI, Hiroyuki KASHIWAGI, Keita TAKENOUCI and Risa FUKUDA.....	19
Articles		
Dendrochronology and Egyptology	Pearce Paul CREASMAN and Jeffrey S. DEAN.....	45
Regional Variability of Personal Adornments and Burial Customs in the Middle Kingdom	Seria YAMAZAKI.....	59
Summary of the Recent Undergraduate Theses.....		79
Activities of the Society, 2014-15.....		103
Brief Reports of Fieldworks in Egypt, 2014.....		107
Editor's Postscript.....	Jiro KONDO.....	113

活動報告

2014 年度 早稲田大学エジプト学会活動報告

1. 総会

日時：2014年4月21日（月）

会場：エジプト考古学ビル2階

2. フォーラム、シンポジウム

(1) エジプト・フォーラム 23 『古代エジプトの来世観－新発見！ルクソール貴族の墓－』

日時：2014年10月11日（土）15:00-18:00

会場：早稲田大学大隈記念講堂（大講堂）

プログラム：

・基調講演 (1) 『古代エジプトの来世観』

吉村作治（早稲田大学名誉教授・東日本国際大学副学長・工学博士）

・基調講演 (2) 『ビール醸造長コンスウエムヘブの墓の発見』

近藤二郎（早稲田大学教授・早稲田大学エジプト学研究所所長）

・パネル・トーク『古代エジプトの墓と埋葬』

コーディネーター：吉村作治

パネリスト

「先王朝時代」：馬場匡浩（早稲田大学助教・文学博士）

「古王国時代」：高橋寿光（早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員）

「中王国時代」：矢澤 健（早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員）

「新王国時代」：河合 望（早稲田大学准教授・Ph. D.）

「第3中間期～末期王朝時代」：和田浩一郎（サイバー大学専任講師・文学博士）

総括：近藤二郎

懇親会会場：早稲田大学大隈会館



吉村先生の基調講演



パネルディスカッション

(2) 第3回太陽の船シンポジウム『太陽の船にこめられた古代エジプト人からのメッセージ』

日時：2014年7月28日（月）18:30-20:30

会場：早稲田大学小野記念講堂

プログラム：

【第1部】

・開会の挨拶

近藤二郎（早稲田大学文学学術院教授・早稲田大学エジプト学研究所所長）

・シンポジウムの趣旨・講演者紹介

吉村作治（早稲田大学名誉教授・工学博士 東日本国際大学副学長）

・基調講演“Maritime Archaeology and Ancient Egypt”『海事考古学と古代エジプト』

ポール・ピアース・クレスマン（アリゾナ大学年輪年代研究所助教・Ph. D）

通訳：河合 望（早稲田大学准教授・Ph. D）

【第2部】

・パネルトーク

コーディネーター：吉村作治

「調査の進捗報告」：黒河内宏昌（太陽の船復原研究所教授）

「ピットの中の作業について」：高橋寿光（早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員）

「保存について」：青木繁夫（サイバー大学教授）

司会：河合 望

3. エジプト考古学特別講演会

(1) センウセレット3世ピラミッド発掘調査最新報告

アデラ・オッペンハイム博士（メトロポリタン美術館エジプト美術部）

日時：2014年7月22日（火）18:30-19:30

会場：早稲田大学早稲田キャンパス11号館506教室

(2) メトロポリタン美術館を中心とする合同調査隊による

ルクソール西岸マルカタ王宮の調査：2008～2014年

ダイアナ・クレイグ・パッチ博士（メトロポリタン美術館エジプト美術部長）

日時：2014年10月14日（火）18:30-19:30

会場：早稲田大学国際会議場3階 第2会議室



オッペンハイム博士



クレイグ・パッチ博士

4. 定期研究会

(1) 第21回

日時：2014年4月21日（月）

会場：エジプト考古学ビル2階

発表題目：「古代エジプト的＝アジア的なるものを求めて」

発表者：中川 武（早稲田大学理工学術院教授）

(2) 第22回

日時：2014年6月9日（月）

会場：エジプト考古学ビル2階

発表題目：「グラフィティにみる古王国時代の建築と社会－石材に文字を記す意図を読み解く－」

発表者：山田綾乃（早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程）

(3) 第23回

日時：2014年9月29日（月）

会場：エジプト考古学ビル2階

発表題目：「新王国時代におけるシャブティ・グループの差異と個体特徴の変化

－王のシャブティに見る変化の様相とその影響－」

発表者：熊崎真司（早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程）

(4) 第24回

日時：2014年12月4日（月）

会場：エジプト考古学ビル2階

発表題目：「カエムワセト王子とオペラ・アイダ」

発表者：高宮いづみ（近畿大学文芸学部教授）

5. 定期研究会発表要旨

(1) 「古代エジプト的＝アジア的なるものを求めて」

中川 武

1970年代の後半に、吉村作治先生のミニ・ピラミッド建設実験プロジェクトに参加。私にとっては、はじめてのエジプト、はじめての海外、はじめての建築の原像、はじめての人類の文明史的源流との出会いであった。そのことが、私なりの関心の推移にどのように影響したのか。現時点であらためて振り返ってみた。特に、古代エジプト的なものの中心にあるアジア的なものの、現代的な意味について再考した。

(2) 「グラフィティにみる古王国時代の建築と社会－石材に文字を記す意図を読み解く－」

山田綾乃

本研究会においては、修士論文で扱ったグラフィティと呼ばれる建築作業時の書き付けの集成に基づき、古王国時代全体を通してそのアセンブリッジの変遷を追った。さらに、アセンブリッジの変遷と当時の古王

国時代社会との関係性について考察した。

分析結果では、グラフィティのアセンブリッジが、古王国時代の石造建造物のプランや工法の変化と同調していることを示した。すなわち、建設労働者の組織形態は比較的短いスパンで変動しており、労働者の組織化の発展（規模の拡大や体系化）は建設事業の段階的発展と共にあるということが明らかになった。一方で、建築学上の変化を理由とした組織構成の変化とは異なる動きが第5王朝半ば前後に台頭することも判明した。第5王朝半ばに関しては、複数の研究成果によってその社会的・政治的变化が指摘されている時代であり、古王国時代末の一大画期、或いは古王国時代崩壊の初現として位置づけられようとしている。今後本発表の成果もその画期に関する議論の根拠の一部と成っていくであろうという展望を述べた。

(3) 「新王国時代におけるシャブティ・グループの差異と個体特徴の変化

－王のシャブティに見る変化の様相とその影響－

熊崎真司

本発表は、集成した王のシャブティの検討に基づくものである。所有関係、製作の前後関係の特定が比較的容易なこれらのシャブティを所有者別に個別の集合としてとらえ、王のシャブティに見られる個体ごとの変化、また、それら集合の間に見られる傾向の変化について論じた。王のシャブティ群は、新王国時代のシャブティの中でもとりわけ先鋭的な要素を有し、シャブティに見られる様々な変化を先取りしていることが認められた。しかしながら、これまで多くの研究が蓄積されてきた、王のものではないシャブティと比較した時、王のシャブティのみが有する特徴、王のシャブティから欠落していく、あるいは、採用されなかった特徴も多数存在することが分かった。このことから、王のシャブティは、同時代の他の人々のシャブティとは必ずしも同じ枠組みでとらえられるとは限らず、ある種並行関係にある存在としてとらえていく必要があると結論付けた。

(4) 「カエムワセト王子とアイーダ」

高宮いづみ

カエムワセト王子は、古代エジプト第19王朝ラメセス2世の第4王子であり、早稲田大学アブ・シール南遺跡調査隊が王子の石造建造物を発掘したことでなじみ深い。他方、オペラ『アイーダ』は、G. ヴェルディが作曲した古代エジプトを舞台にした壮大なオペラである。

両者の間にどのような関係があるのか、ないのか。それが本日の発表のテーマである。アイーダの原作者であるフランス人エジプト学者 A. マリエットを介して、両者の間につながりがあるかもしれないと推測してみた。

6. 法人会員

早稲田大学エジプト学会の法人会員として、(株) 熊谷組、(株) ポニーキャニオン、RKB 毎日放送 (株)、(株) アケトにご支援をいただきました。ここに記して感謝いたします。

エジプト学研究 第21号

2015年3月31日発行

発行所 / 早稲田大学エジプト学会

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

早稲田大学エジプト学研究所内

発行人 / 吉村作治

The Journal of Egyptian Studies No.21

Published date: 31 March 2015

Published by The Egyptological Society, Waseda University

1-104, Totsuka-chyo, Shinjyuku-ku, Tokyo, 169-8050, Japan

© The Institute of Egyptology, Waseda University